

検証結果【地方創生関係交付金活用事業】(当日検証)

No.	事業名	事業目的及び概要	事業実施状況	担当課における評価		検証委員からの評価	
				所見	評価	所見	評価
1	<p>SDG s 先進地域「にし阿波」における農泊観光推進プロジェクト(広域連携)</p> <p><推進交付金></p>	<p>にし阿波での農業体験や教育旅行等で培われたSDG sに繋がる教育体系を、農泊エリアへの観光誘客に活用し、観光客・宿泊者の増加を図るとともに、地域住民の参画や関与を深めてシビックプライドの醸成につなげる。</p> <p>また、農泊の拡大や充実、SDG sを活用した新たな旅行商品の開発により、通常の観光や教育旅行よりも深い関係人口の創出を目指す。加えて、世界農業遺産推進協議会を中心にSDG s観光の核となる農村地域の保全・継承を図る。</p>	<p>民間事業者やDMO法人「そらの郷」、行政(県と2市2町)が広域に連携し、農泊受入家庭支援研修や関東の私立学校等への顧客開拓営業、地域住民対象の世界農業遺産シンポジウムの開催等、様々な取組を行った。なお美馬市での教育旅行の受入数は764泊であった。</p> <p>【KPI】</p> <p>①にし阿波における農泊施設の延べ利用者数(内、美馬市) 目標値：3,000(1,480)人 実績値：4,712(1,574)人</p> <p>②にし阿波における国内延べ宿泊者数 目標値：140,000人 実績値：168,551(内、美馬市：49,833)人</p> <p>③にし阿波への移住者数 目標値：260人 実績値：368(内、美馬市：161)人</p>	<p>コロナ禍の影響でインバウンドが消失した中、本事業を活用した各種の取組によって、課題であった圏域内での国内宿泊者数や農泊利用者数の増加につながった。</p> <p>また、アンケート調査結果によると、1人当たり旅行消費額が対前年度比+4.6%の24,967円という結果となった。</p>	<p>①本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を上回ったなど)</p>	<p>・にし阿波における農泊施設の延べ利用者数、その内の美馬市における利用者数も順調に増加する等、すべてのKPIにおいて実績値が目標値を上回っており、順調な実施状況であることがうかがえる。</p> <p>・ビーガン対応等食文化の多様性にも配慮している点は評価できる。</p> <p>・SDG sを前面に出した「旅行商品」をより多く展開されることを期待する。</p> <p>・美馬市は他市町に比べ農泊の新規参入が多いことから、住民の理解も得られており、住民との協働が事業推進のカギになる。</p> <p>・にし阿波地域で適度な競争を行い、互いに観光地としての魅力を高め合うことも必要である。</p> <p>・農泊については関係者の高齢化が懸念されることから、次世代の人材育成等の備えが急がれる。</p>	<p>①当該事業が総合戦略の達成に「有効であった」</p>

No.	事業名	事業目的及び概要	事業実施状況	担当課における評価		検証委員からの評価	
				所見	評価	所見	評価
2	うだつの町並み古民家改修による観光経済活性化事業 ＜拠点整備交付金＞	<p>うだつの町並みにおける宿泊・飲食施設の滞在時間の隙間を埋める新たな消費の場として、また、古き趣ある町並みで新しいものが生まれるインキュベーションスペースとして、うだつの町並み内の古民家を新たなランドマーク施設に改修し、観光誘客と地域経済の活性化を図る。</p> <p>具体的には、古民家を朝食がとれる店及びチャレンジショップとして整備するほか、本施設の2階をギャラリー兼コミュニティスペースとして整備・貸出しすることで、地元との交流を促進する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大や資材単価の高騰等も影響し、3度目の入札でようやく工事がスタートした。</p> <p>また、その後、設計段階では予想されなかった腐食箇所が発見され、安全を考慮して当該建築物の文化財としての価値を保ちつつ、計画の趣旨に沿った施設を整備するためには、工期の延伸が必要となったため、令和5年度に事業を繰越し、現在も引き続き工事を実施している。</p> <p>【KPI】</p> <p>①うだつの町並み観光入込客数 目標値：140,000人 実績値：136,725人</p> <p>②当該施設での年間売上額、周辺宿泊施設等との連携件数、チャレンジショップ利用件数は、目標値及び実績値共に「0」。</p>	<p>現在、令和5年度に事業を繰越しして実施している状況であり、完成までは事業効果を確認することができない。</p>	<p>⑤事業効果を確認できない</p>	<p>・様々な外部要因による入札不調や、当初計画段階で予測できなかった腐食箇所への対応等による工期の延伸があり、現時点では検証することが難しい。</p> <p>・事業を繰り越したことにより完成までの期間が伸びているため、この間に、指定管理者を募集するに当たっての仕様書（行程表）の内容について、しっかり検討してもらいたい。</p> <p>・朝食を提供するスペースを整備するとのことであるが、一般的に朝食は単価が低く、宿泊施設では宿泊とセットで提供されることが多いため、競合もあると思われるが、魅力ある施設にしてほしい。</p> <p>・賑わいを生み出す仕掛けの一つとして有効であると考えられるため、着実に進めていただきたい。</p>	<p>③当該事業が総合戦略の達成に「有効であったか検証できない」</p>

No.	事業名	事業目的及び概要	事業実施状況	担当課における評価		検証委員からの評価	
				所見	評価	所見	評価
3	<p>美馬市「人生100年時代」美と健康のまちづくり推進プロジェクト</p> <p><推進交付金></p>	<p>幅広い市民が「人生100年時代」とは何かを知り、「人生100年時代」にふさわしい人生設計を行うとともに、100歳人生の後半（高齢期）に健康で積極的に社会に参加し、それまでに培ってきた豊かな経験やスキル、「学び直し」によって身につけた知識などを地域社会で存分に発揮できる姿を目指す。</p> <p>具体的には、「ジェロントロジー市民アンバサダー」の養成や活動支援、「美」を通じた高齢者の外出促進、「運動」と「食事」へのアプローチにより健康寿命の延伸を図る等、様々な取組を一体的・総合的に展開する。</p>	<p>・「ジェロントロジー市民アンバサダー」の認定制度の構築や講演会、ワークショップの実施。</p> <p>・アクティブシニアとのマッチングや、情報発信を行うポータルサイトの構築。</p> <p>・高齢者の外出促進のための福祉美容講演会や美容体験会、カラーコーディネート講座等の実施。</p> <p>・「プロギング」イベントや市内のモデルウォーキングコース（3箇所）の構築及びウォーキングイベント、食生活改善のためのワークショップの実施。</p> <p>【KPI】</p> <p>①アンバサダー関係事業以外の事業への延べ参加者 目標値：750人 実績値：757人</p> <p>②ジェロントロジー市民アンバサダー年間延べ活動日数 目標値：500日 実績値：133日</p>	<p>令和4年度はジェロントロジー市民アンバサダーを認定する制度を構築し、養成することが中心となったため、KPI②は目標値に到達しなかったが、アンバサダーによるジェロントロジーワークショップ等への意欲的な参加が見られた。引き続きアンバサダーの活動を後押しすることで、ジェロントロジーが普及し、各事業への参加者数が増加していくと考察する。</p>	<p>③本事業は地方創生に効果があった（目標値を上回ることもあったものの事業改善も開始も改善したなど）</p>	<p>・超高齢社会において高齢者が心身ともに健やかに生活し、さらには活躍していく上で、本事業はその一助になる。</p> <p>・まだ普及途上である「ジェロントロジー」という視点をまちづくりに導入した点は、大変素晴らしい。</p> <p>・KPI①の対象事業への参加者数は目標を達成しているが、KPI②のジェロントロジー市民アンバサダーの活動日数が目標値に達していないため、目標値の見直しが必要と考える。</p> <p>・ジェロントロジー市民アンバサダーを増やすことは勿論、ワークショップの開催等を増やし、実質的な活動の充実を図る方向にも、努力してほしい。</p> <p>・「ジェロントロジー市民アンバサダー」については取組が始まったばかりだが、このアプローチが成功すれば美馬市の新たな地域ブランドとしても大きな要素となり得る。</p>	<p>①当該事業が総合戦略の達成に「有効であった」</p>

No.	事業名	事業目的及び概要	事業実施状況	担当課における評価		検証委員からの評価	
				所見	評価	所見	評価
4	スマート農業(IoT水耕栽培施設)導入による地域の担い手人材確保・育成事業 <拠点整備交付金>	<p>人口減少、農業の担い手不足及び耕作放棄地の増加を一体的に解消するため、未来型スマート農業ハウス(IoT水耕栽培)を導入し、スマート農業の体験などのアグリワーケーションを通じた交流人口や関係人口の増加につなげる。</p> <p>また、水耕栽培施設の技法を市内に広げるとともに、新規就農(起業)や地域の担い手となるリーダー農業者の確保・育成に取り組む。</p>	<p>IoTを活用した水耕栽培機器とワークルームを備えた「美馬アグリワーケーション施設」の整備を行うとともに、新規就農(起業)や地域の担い手となるリーダー農業者の確保・育成にむけて、「リーダー農業経営者育成講座」を開催した。</p> <p>【KPI】 ①当該施設利用者のうちの就農者数、年間収入額、利用者のうちの移住者数は、目標値及び実績値共に「0」。</p>	<p>「美馬アグリワーケーション施設」の工事完了日が令和5年3月末であり、実質的な受入可能時期が令和5年夏頃になる見込みであるため、事業効果を確認できない。</p>	<p>⑤事業効果を確認できない</p>	<p>・「美馬アグリワーケーション施設」においては、実際の受け入れが令和5年度になることから、現時点では検証することが難しい。</p> <p>・今後当該施設が、採算面やマンパワーといった運営面で自立を目指すことが必要だが、その場合「生産施設」なのか「交流施設」なのか、目的を明確にすることが求められるのではないか。</p> <p>・就農者数や移住者数を目標値として設定するのは少し無理があるように思われるため、施設の見学者数や利用者数をKPIにしてはどうか。</p> <p>・リーダー農業経営者育成講座の受講者を、当該施設の利用者につなげていくことが必要である。</p> <p>・成否の鍵は、来訪者への対応等指定管理受託者のスキルに依るところが大きいように思われるため、連携の取り方が重要である。</p>	<p>③当該事業が総合戦略の達成に「有効であったか検証できない」</p>